

2.2 ワークショップ・意見交換会の実施

FAM ツアー実施直後に、地域の観光関係者との意見交換会を実施した。

2.2.1 ワークショップ・意見交換会概要

▽日時 令和5年10月27日(金) 14:00~16:30 (開場 13:30)

▽実施場所 LAND(帯広市西2条南1丁目12番地1 帯広駅から徒歩1分 天光堂ビル 一階)

▽当日参加人数 28名

No	氏名	会社名・ご所属先・役職	
1	小川宣幸	フィールデザイン 代表	
2	磯野 巧	広尾町役場 (地域おこし協力隊), ピロロリズム推進協議会 (事務局)	
3	高畠 敦子	浦河町地域おこし協力隊	
4	永田剛	十勝シティデザイン 馬文化事業部/馬車BAR	
5	手塚睦	通訳案内士	
6	Judy Mukoda	通訳	当日欠席
7	梶山智大	株式会社AOILO 代表取締役	
8	篠田 博行	十勝空旅舎	
9	工藤 陽司	帯広市観光交流課 地域おこし協力隊	
10	渋谷勝彦	箱家	
11	西口 勇暉	帯広市役所 観光交流課 主任補	
12	加藤 帝	帯広市役所 観光交流室 室長	
13	鈴木 克浩	株式会社JTB 北海道事業部 営業五課 帯広サテライト 営業担当課長	当日欠席
14	荒井宏文	札幌テレビ放送株式会社 コンテンツビジネス部	
15	藤田 薫	帯運観光株式会社	
16	大川彩果	釧路市地域おこし協力隊	
17	実重 貴之	北海道開発局・帯広開発建設部・次長	
18	野村竜介	TACとかちアドベンチャークラブ	
19	栗城 広賢	芽室町役場 魅力創造課 主事	
20	宮本 昌武	芽室町役場 魅力創造課 地域おこし協力隊	
21	大西 亮一	鹿追町役場 商工観光課 課長	当日欠席
22	蒲原亮平	有限会社蒲原水産 北海道JC	
23	片岡 正太郎	(有)カタオカ企画	
24	山川真幸子	全国通訳案内士 (英語)	
25	高野竜二	高野農場	
26	滝田武志	マッシングワークス	当日欠席
27	湯川大輔	クナウパブリッシング	
28	及川雅敦	十勝プラス	
29	山本晃弘	(株)KOYA.lab 執行役員	
30	大西華奈	クナウパブリッシング	
31	渡邊太一郎	クナウパブリッシング	
32	Ms.桜井	箱家	

2.2.2 当日アジェンダ

十勝・アドベンチャートラベル推進事業 インバウンド旅行者・アドベンチャートラベラー受入意見交換会 次第

日時：令和5年10月27日（金）14:00～16:30

場所：LAND（広市西2条南1丁目12番地1 帯広駅から徒歩1分 天光堂ビル 一階）

1. 主催者あいさつ（5分）
2. 実例紹介（30分）
演題：ソフト・アドベンチャートラベル
内容： アドベンチャートラベルの需要
ガイドの重要性とアドベンチャートラベルに求められるガイド像
講師：KODO コドー合同会社 シャノン・ウォーカー氏（30分）
3. 実例紹介（30分）
演題：地域資源の見せ方 九州の事例紹介
内容： インバウンド顧客が日本に求めるもの
地域での受入事例紹介（九州の事例）
講師：KASANERU 株式会社 ワル・マックス氏（30分）

～休憩／会場レイアウト変更（10分）～

4. 講師と参加者の意見交換（60分）
・事前にいただいた内容をもとに2つにテーブル分けをして、講師と参加者の方の意見交換を行っていただきます。
5. 閉会あいさつ（5分）

以上

2.2.1 当日の様子



シャノン氏の講演の様子



マックス氏の講演の様子



意見交換会の様子（シャノン氏）

2.2.2 進行表

十勝・アドベンチャートラベル推進事業インバウンド旅行者・アドベンチャートラベラー受入意見交換会

■進行表

※会場の設営時はLAND スタッフの方もいらっしゃいます。確認をお願いいたします。

12:30	宝島 常井：LAND集合
12:30	椅子の設置/テーブルの移動開始
13:30	常井・受付開始
13:30	講師2名及び司会雨池 モニターツアーより会場到着
13:30	受付開始/講師モニターチェック
14:00	スタート

	時間	画面上表示	項目	内容	備考
14:00 ~ 14:00	0:00	司会	司会挨拶 (雨池)	・この度は「十勝・アドベンチャートラベル推進事業インバウンド旅行者・アドベンチャートラベラー受入意見交換会」にご参加頂きありがとうございます。 ・本日司会をつとめます北海道宝島旅行社の●●です。よろしくお願いいたします。 ・今回の趣旨としては、十勝エリアのアドベンチャー推進のために、北海道外でアドベンチャートラベルの実務やインバウンド体験プログラムの開発等でご活躍のKODO合同会社のシャノン・ウォーカー様、KASANERU株式会社 ワル・マックス様にお越しいただいております。お二人は10月24日～本日にかけて十勝をモニターツアーにてこのエリアをお楽しみいただきました。そのお話しを含め、お二方のお取組みや事例紹介についてお話しいただきます。その後、疑問点等ございましたら、お二方のお話しの後2テーブルに分かれて意見交換会のお時間を設けております。その際にお話しいただけますようお願いいたします。 では、早速ですが、次第の進行についてお話しさせていただきます。 主催者ご挨拶 十勝総合振興局◎◎様よろしくお願いいたします。	★スライド 事務局「タイトル」※雨池PC ★スライド 事務局「本日の流れ・モニターツアーの内容」※雨池PC ◎◎様、前列の席から司会へ移動 雨池司会席へ待機
14:00 ~ 14:05	5分	十勝総合振興局	主催者挨拶	十勝総合振興局の◎◎と申します。	
14:05 ~ 14:07	2分	司会	雨池	ありがとうございます。では、さっそくですが、講師のお話しに進めさせていただきます。「ソフトアドベンチャー」と題しまして、KODO合同会社 シャノン・ウォーカー様、よろしくお願いいたします。	PC設定(常井さん・シャノンさんお願いいたします)
14:07 ~ 14:37	30分	講師1名、司会	講師(シャノン様)	・講師のお話 シャノン様事例紹介「ソフト・アドベンチャートラベル」	★スライド(シャノン様PCにて)※Mac
14:05 ~ 14:07	2分	司会	雨池	ありがとうございます。では、次に「地域資源の見せ方 九州の事例紹介」と題しまして、KASANERU株式会社 ワル・マックス様、よろしくお願いいたします。	PC設定(常井さん・マックスさんお願いいたします)
14:40 ~ 15:10	30分	講師1名、司会	講師(マックス様)	・講師のお話 マックス様事例紹介「地域資源の見せ方 九州の事例紹介」	★スライド(マックス様PCにて)※Mac
		司会		では、後半は参加者との意見交換会のお時間とさせていただきます。お席の移動がございますので、ご協力をお願いいたします。	
15:10 ~ 15:20	10		休憩	※10名+宝島1名+講師1名の計12席車座に椅子を配置。 ※各割り振りは雨池の方で指示します。	★スライド 事務局「休憩中」
15:20 ~ 16:20	60分	意見交換会	2テーブル	・ファシリテートは常井/雨池 ・それぞれ自己紹介を1周 ・事前にいただいた話題がある方は、常井/雨池にて話題を振る ・講義の質疑があれば、募り ※人数によってはグループ入れ替えの可能性あり。	★スライド 事務局「意見交換会」 ※実施方法について、軽く記載
16:20 ~ 16:30	10分	閉会のあいさつ	司会 (雨池)	お疲れ様でした。疑問や課題は解決に近づいておりますでしょうか。この後も17時まで会場が空いておりますので、もし聞き足りないという方はぜひご質問をしてみてください。また、参加者同士のネットワークも重要になりますので、この機会にぜひ、お話を深めたいという方向士でもお話をしてみてください。 では、以上を持ちまして、当意見交換会を終了させていただきます。ご参加いただきありがとうございました。お忘れ物に注意いただき、お気をつけてお帰りくださいませ。	

2.2.3 会場レイアウト図



■貸し切り部分は入口の方のイベントスペースのみ。奥のコワーキングスペースは一般開放。

▽受付スペースはないため、入ってきた方をチェックする形をお願いします。

▽入口から右手にモニターを設置。PCをおくスペースを確保いただきたいです。

▽テーブルは必要なしのため、椅子のみ20脚（想定）で行います。

※奥のコワーキングスペースの方が通れるよう、カウンター側に隙間を確保願います。

▽司会者席は、モニターに向かって右側の端に椅子のみ設置

▽講師及び十勝振興局の主催者ご挨拶の方のお席は客席前列（3脚）中央部に。

そのほか関係者席は入口側に5脚程度準備。

▽【事例紹介→意見交換会への転換】

椅子のみのため、10名+講師1名+宝島1名で車座に椅子を配置。

- ・講師と宝島の配置はシャノン氏+雨池/マックス氏+常井
- ・参加者については、当日雨池の方でいただいた質問を基に振り分けをします。

■LANDレンタル品

- ・モニター→PCにつなげてスライド表示
- ・タイプCのHDMIケーブル
- ・マイク1本

■宝島持参物

- ・雨池PC
- ・出席名簿（チェック用、参加人数配布用）
- ・次第（参加人数配布用）

効率的に意見交換会を実施するために、参加者に対し、事前に講師への質問を行った。

項目	詳細
インバウンド顧客のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 北海道に求めているもの魅力と感ずること。ATにおける運動強度について。 ➤ 日高山脈で進めていくべき観光コンテンツ、インバウンド観光客が求めるもの、知床や大雪山との差別化できること、などお聞きしたいです。 ➤ 海外顧客がアクティビティにアクセスする際の壁、または受け入れ側にどうして欲しいと思っているか？教えて欲しいです。 ➤ インバウンドと北海道の放送局、コンテンツメーカーが接点をもつとするならば、それは何か。 ➤ 十勝エリアへの欧米圏からの関心度合を教えてください。 ➤ 地域活性におけるATの活用、可能性を北海道の地方都市(小さなまち)にも届けるための効果的な展開手法。AT推進に際しスルーガイド不足が懸念材料だと思いますが、ガイド育成、教育、経営ベースに乗せ自立させる方法が知りたいです ➤ 地域交流にフォーカスしたツアーについて詳しく知りたいです。ATと言うとハードなアウトドアアクティビティを思い浮かべますが、体力のある方じゃなくても楽しめるコンテンツの例を紹介して下さると嬉しいです。 ➤ ニュージーランドに行ったときに、マウンテンバイクが文化として根付いているなど感じた。どのようにそういう環境が作られていったのか。 私はマウンテンバイクが好きなので、十勝でもマウンテンバイクを楽しめる環境が増えればと思うが、国内外のマウンテンバイクの需要を知りたい。”
インバウンド顧客へのPR方法	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市場にアプローチする最初の段階について(どのようにアプローチすべきか) ➤ 国内商品と異なりインバウンド商品は造成後の販売方法について知見がありません。現在はこの点が妨げになっています。 具体的な事例など教わりたいと思います。 ➤ 地域ごと市場動向とアプローチの方法 ➤ AT旅行者やインバウンド顧客へのPR方法として、相手はどのような情報を求めているのか。 ➤ 十勝のATの可能性
販売や催行に向けた準備	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 販売方法
その他	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ①地域のAT振興は何をすべきか ②十勝におけるAT資源として魅力的に感ずるものは？ ③日本のATの取り組みでうまくいっていると感じるもの(地域) など ➤ ATはインバウンド富裕層がターゲットということで、わくわくさせるようなガイディングは不可欠だと思いますが、なかなかそのレベルまで達している人は地域に多くないかと思ひます。ガイド候補者をどのように発掘し、どのように育成すべきか、先生のお考えを拝聴できればと思ひます。